

第4次合理化社宅に指定された万田山下町の一部分

前向きとは大違い

会社、第四次社宅合理化を強行

昨年十月に会社が提案した「社宅計画」について、三池労組は大衆討議を経て対案を作り要求書を提出し、一月十八日団体交渉を開きましたが、提案のやう、「組合の意見も十分聞いて前回きに」としておきながら、第回次社宅合理化を「一月一日から実施するとの態度を表明、組合は「論議を戻す」もの強く迫りましたが会社は必ずりませんでした。

三池労組の社宅計画についての、本的な理念については異論はないが、具体的な実施については話しが、金社の計画は膨大な借入金をかかえている現在、財務的な対策を明らかにし、解体後の社宅跡地である」として、結局「金がないうからすぐて要求には応じられない」という態度でした。

勝立ニュータウン計画による社宅問題については高田町への移行を合意したいと表明。闘争本部問題については別途協議することになり、現行の分譲方式に固執、合理化社宅の転居料などを譲り受けた。(具体的な問題は委員会で報告)

（アパート・一戸建て）と環境の整備が重要であり、急がれなければならぬ」として、①住・工分離による社宅の集約、②空きの解体、③整備と跡地の安価分譲、④持家制度の改善、⑤闘争本部の確保などを中心としたもののです。などといったことは二月の中央交渉事項であるとして回答を選びました。

初旬に要求書提出

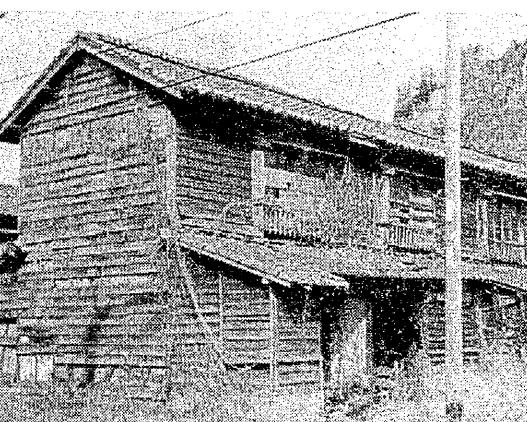
労働条件、労働協約、福利・厚生

初旬に要求書提出

——中央交渉は中旬以降、毎年春闘を前にして労働協約、労働条件、福利・厚生などの改善を要求してきたが、約一ヶ月間の大衆討議を経て、十六日の委員会で集約(一月三日)に要求書を提出、中旬(?)から

いよいよ二月
中旬から労働協約、労働条件、福利・厚生の中
央交渉がはじま
げを強行し、労働者と家族の
をかかっています。
いま、三池炭鉱の各職場で
性的な人員不足がまことに深

切実な要求を 実現するためには



有明大災 害一周年

声明

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033-4
編集兼发行人 杉本一男
半年間1,200円 送料共
振替口座番号
労金大牟田
0968946-005

公判のお知らせ

向坂逸郎氏逝く

元九大教授向坂逸郎氏はかねて
入院療養中でしたが、一月二十一
日午前零時五十八分死去されまし
た。謹んで哀悼の意を表します。
故人の意志で葬儀は行われませ
んでしたが、二十四日の『お別れ
の会』には三池労組から代表が参
加しました（三面に組合長談話）。

八十人の尊い労働者の命を奪い、十六人の一酸化中毒患者を出す戦後の炭鉱災害史上四番目の大惨事となつた有明鉱大災害から一年を迎えた。

巨大な、ガス室ながらの坑道をはいりまわった末、黒煙吸われ、息絶えていた仲間たちの怨念は、まだ有明鉱の坑底をわざようじに遡りあります。残された遺族の悲しみと怒りは消えることなく、苦悩の一周年を迎えました。

かううじて救出された仲間もCO中毒症に冒され、まだ健康を回復していません。

三池労組は、会社に対し、あらためて十分な遺族対策と補償、患者への手厚い措置を要求します。

かくして、生涯にわたる生活の不安をなくし、責任追及とともに、かけがえのない命の代償を求めて勇氣ある民事訴訟の提訴に立ち上がった遺族のみなさんは、すでに通産省の事故調査委員会の報告書にも明らかとなつてゐる態度を示すよう要求します。

有明鉱大災害の原因について、すでに通産省の事故調査委員会の報告書にも明らかとなつてゐる、「ベルトコンベヤーのローラーの角と、腐食してはずれたローラースタンドが異常摩擦し発熱。堆積していた落灰に引火し、縦型調量門、坑木、落灰、ベルト、ケーブルなどに延焼、火災を拡大させた」のです。これは、眞鑑の鑑定書でも裏付けられていますが、過去の災害の教訓を無視した、まったく初步的な保安の「手抜き」です。

また、被害が拡大したのは、ベルト当番がいなかつたこと。煙感知器やベルト片寄り防止装置がなかつたこと。退避命令が遅れ、避難誘導が適切でなかつたこと。さむに連絡システム、消火・給水システム、救急センター、COマスクなどの保安対策の欠陥がありました。復合的な保安管理体制の不備から起つた災害であり、過失はおろか十分に予見できた「人災」であつたことは明らかです。

三池労組はこの事実をふまえて、この大災害は会社経営者と現場責任者の生産優先、保安軽視の結果発生したものだとして、件の低下」となつて労働者の犠牲が強要され、続発する炭鉱災害の引き金になつていています。この現状を直視するのも、会社幹部を告発しました。検察警察当局の厳正な刑事責任の追究を直視するのも、政府に対しても、有明鉱災害の原因については、会社幹部が書いた「災害・事故の絶滅」とは裏はらない。山本にてもかかわらず、改善が実施されたにもかかわらず、会社幹部が書いた「災害・事故の絶滅」とはね、落盤・鉱事故などによつて四人の労働者の命が奪われ、統計に出ただけでも四百十七人が傷つき倒れ、まさに「災害に明け災害に暮れた」一年間でした。

災害後の保安体制は、一定の改善が実施されましたが、それでもかかわらず、会社幹部が書いた「災害・事故の絶滅」とは、会社の生産優先の姿勢が根本的に変わらず、徹底した減量合理化による慢性的人員不足が大きなかかわりであります。

このよゐな災害・事故の原因は、会社の生産優先の姿勢が根本的に変わらず、会社幹部が書いた「災害・事故の絶滅」とはね、落盤・鉱事故などによつて四人の労働者の命が奪われ、統計に出ただけでも四百十七人が傷つき倒れ、まさに「災害に明け災害に暮れた」一年間でした。

みなさんの理解ど、いつそこのよゐな災害・事故の原因は、会社の生産優先の姿勢が根本的に変わらず、会社幹部が書いた「災害・事故の絶滅」とはね、落盤・鉱事故などによつて四人の労働者の命が奪われ、統計に出ただけでも四百十七人が傷つき倒れ、まさに「災害に明け災害に暮れた」一年間でした。

三池炭鉱労働組合